

感情の理解と対処の育成プログラム構成

構成上位目標	構成中位目標	構成下位目標	操作目標	対象学年					
				小3	小4	小5	小6	中1	
感情の理解と対処の育成	I. 感情の同定ができる。	1. 自分の感情の同定ができる。	a. 身体的特徴から、自分の感情に気づくことができる。	○	○	○			
			b. 声や言葉から、自分の感情に気づくことができる。						
		2. 他者の感情の同定ができる。	c. 身体的特徴から、他者の感情に気づくことができる。				○	○	
			d. 声や言葉から、他者の感情に気づくことができる。						
	II. 感情の理解ができる。	3. 自分の感情を理解することができる。	e. 自分の感情が発生する原因を探ることができる。	○	○	○			
			f. 自分の感情が発生する思考を探ることができる。						
			g. 自分の感情には種類があり、それぞれ意味があることを理解できる。						
			h. 自分の感情には強さがあり、その強さには意味があることを理解できる。	○	○	○			
		4. 他者の感情を理解することができる。	i. 他者の感情が発生する原因を探ることができる。					○	○
			j. 他者の感情が発生する思考を探ることができる。						
			k. 他者の感情には種類があり、それぞれ意味があることを理解できる。						
			l. 他者の感情には強さがあり、その強さには意味があることを理解できる。						
	III. 感情への対処	5. 自分の感情に対処することができる。	m. 自分の感情への対処方法の現状を把握できる。	○	○	○			
			n. 自分の感情が生じる思考を修正することができる。	○	○	○			
			o. 自分の感情について、様々な対処方略を考案・実行することができる。	○	○	○			
		6. 他者の感情に対応することができる。	p. 他者の感情への対応方法の現状を把握できる。					○	○
q. 他者の感情が生じる思考を捉え、対応することができる。									
r. 他者の感情へ対応する、様々な方法を考案・実行することができる。									